

(別紙) 2023年度 グループホームしおさい事業所自己評価

No.	タイトル	評価項目	自己評価	記述	運営推進会議で話しあった内容	外部評価	記述
I. 理念・安心と安全に基づく運営							
1	理念の共有と実践	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎朝の朝礼申し送り時、事業所理念と委員会で都度考案する身体拘束 接遇スローガンを唱和し実践につな げている。⇒しおさい理念:「家庭的 な雰囲気のもとやすらぎある環境づ くりを目指します」 身体拘束接遇ス ローガン:「●利用者さんの自尊心を 大切にありのままを受け入れま しょう ●安心させて信頼される職員 であるように心がけます●人生の先 輩である利用者さんお老いを受け入 れ、できなくなったことを見つけるの ではなく、できることを分かち合いま しょう。			
2	事業所と地域との つきあい	事業所は、利用者が地域とつながりなが ら暮らし続けられるよう、認知症の人の理 解や支援の方法などを共有し、事業所自 体が地域の一員として日常的に交流して いる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	新型コロナウイルス第五類分類変更 後、地域や福祉事業所の感染拡大 状況に合わせて、少しずつ以前の日 常を取り戻すように取り組みを深め ている。トライやるウィーク実習生の 3年ぶり受け入れと交流、地域の行 事への外出(福祉祭り等)にも複数 回参加できた。一方でオンラインで も、社会福祉協議会様の仲介により こども園との交流行事も継続できた (オンライン玉入れ運動会など)。	この3月には一宮社協～ゆうゆうライフ デイへひな人形鑑賞～。ズンバ教室にも 参加。長らく機会のなかった事業所間の 交流もできた。 引野ケアマネ～ ゆうゆうライフデイとしおさいデイ、入居と また交流する機会が多く持てれば。しお さい入居者でも以前にゆうゆうライフデイ を利用していた方も多い。		
3	運営推進会議を活 かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意 見をサービス向上に活かしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	2か月ごとに開催し、淡路市長寿介 護課、地域包括、民生委員、町内 会、社会福祉協議会、利用者家族が 参加。新型コロナウイルス感染拡大 時期もあったが、今年度は事業所 での開催を継続できている。	外部評価～ 意見(長寿介護課担当者 様より) ㊤援助の方針として、「本人が安心して介護 を受けることができるために必要だから、敢え て親しい言葉遣い(地元の言葉等)で声かけ している」ということを職員の皆さんで共通理 解しておいてほしい。 ⇒高齢者虐待身体拘束委員会で提案した。 今月の職員会議時にも職員間で共有したい		

4	市町村との連携	市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	淡路市長寿介護課担当者や地域包括支援センターから相談等受ける体制はとっている。緊急を要するケースには緊急ショートステイの受け入れを柔軟に対応していく体制はとっている。	グループホームならではのしおさいならではの雰囲気や認知症ケアを知ってもらい、在宅、入居への支援を必要とする方の力添えになれば。これも居宅、行政、包括、地域の人に事業所のことを知ってもらってこそその相談である。		
5	身体拘束をしないケアの実践	代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	身体拘束についての勉強会、委員会を持ち、内部研修継続。施設玄関は、防犯と離施設の危険（敷地前がすぐ海）がある為、安全面の確保も必要、職員の操作で解錠継続が現状。利用者が職員と一緒に出入りできる形は常にとれている。寒さ暑さ厳しい季節を除き、日常的に屋外にでる機会は持っている。その他、ユニットの玄関扉など他の窓、扉については防犯のため夜間施錠を除き常に開放している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A 2人 B 4人 ●身体拘束はしないことが原則。ただ安全や生命を維持できない場合もある。内部研修で正しく理解し実践していくことが重要。 ●会議報告にて日常的に屋外に出ていることがわかる。施錠も基本必要であると思う。階段を下りる行為を止めるのではなく、降りれることができたという評価は利用者主体の生活支援と感じた。
6	虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年間の教育訓練で、高齢者の尊厳、虐待／身体拘束の勉強会を定期的に組み込み、実施継続。委員会において、その都度事業所の課題を検討し、スローガンを数か月ごとに更新。朝礼申し送り時で唱和し、啓発に取り組んでいる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A 3人 B 3人 ●スローガンを作り、更新していくのはいいこと。 ●介護者自身が意図的でなくとも利用者の尊厳が守られないことにならないよう職員間で自由に意見し合える関係性を維持して行ってほしい。 ●勉強会、スローガン唱和が意識の向上にはつながると思う。虐待疑い等、発見した時の手順を作成しているとよいのではないかな。
7	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	年間の教育訓練で、権利擁護に関する勉強会を定期的実施。現在制度利用者はいない。			

8	契約に関する説明と納得	契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	契約時にはケアに関する理念、方針、取り組みと、退居時の状況を含め、具体的に説明している。特に認知症ケアへの取り組み、事業所として設備環境、職員人員人材の特性を踏まえ、共通認識を持つことに重点をおいている。常本人、家族にとっての、不安 疑問などに十分説明するようにしている。			
9	運営に関する利用者、家族等意見の反映	利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍にあたっても意図的に月に1回以上は来所される機会を持ってきた。コロナ禍前後でも面会者は月40件程度は維持。常に利用者家族の関係性や、事業所と家族との関係性にも互いに信頼関係が維持できるように努めている。今後、コロナ禍後の更なる日常化の回復に向け、運営推進会議時の家族からの意見にも応えられるようにしていきたい。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×4人 B×2人 ●コロナ禍でも来所する機会、直接面会する機会を、事業所側として知恵を出しながらなんとか設けようとしていることは素晴らしい。他施設では面会を休止する場合が多い中)。 ●自宅での介護は大変。コロナも収まらない。会う機会も含めて本当に感謝している。ただ願わくば正月など皆が大勢集まる機会に連れて帰ってあげたい。 ●家族が信頼して頻繁に訪れやすい雰囲気があるのでは。家族の思いに寄り添った対応を今後もお願いしたい。
10	運営に関する職員意見の反映	代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員会議・面談などで意見を聞く機会を持つようにしているが、一方でチーム作り、関係性の維持にも重点を置いている。管理者に対して相談や、話しやすい環境作りに努めているが、機会としては十分とはいえない。今一度組織や業務の整理も必要で、課題でもある。			
11	就業環境の整備	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	職員の平均年齢63歳。職員の高年齢化など現場の状況を把握しながら、仕事へのモチベーションの維持にも努めている。今年度より、得意な業務や体力的に負担と		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×1人 B×5人 ●職員の顔が見えて、年齢的にも自分たちと大きく変わらず、親切にしてもらっている。

				なる入浴介助業務など業務時間のなかで柔軟に交代できるような取り組みを始めている。男性職員の異動により業務調整も柔軟にできるようになってきた。今後も女性、高齢の職員が主体に違いはないが、得意なことを活かして長く活躍できる働き方を見出していきたい。			●介護事業所において、人員不足、高齢化はどこも課題。年齢層で可能な業務をまわしていく体制は必要。幅広い年齢層の職員がいることでサービスの幅が広がる。馴染みの職員が変わらずいることは利用者の安心につながる。 ●継続して勤務する職員が多いことは互いの業務の相談やケアを高める意識、やりがいを持って働けるのでは。
12	職員を育てる取り組み	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	事業所内の研修は定期に開催。法人内の研修会はコロナ禍で今年度まで休止中である。外部研修なども資格更新研修を除いて、積極的に行えない状況が続いてきたが、今後はコロナ禍後の日常化と同様に、職員のスキルアップの為取り組みを再開したい。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	B×6人 ●事業所内の研修は定期的に行っているのでは。育成という意味では適切なレベルの研修に参加できるよう計画ができればよい。 ●コロナ禍での研修参加は難しかった。変わらない内容で継続することの良さ短所と両面ある。可能な範囲で外部からの情報を取り入れよりよいケアにつなげてほしい。
13	同業者との交流を通じた向上	代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	管理者は市や社協が開催する会議への出席や他機関他専門職と意見交換する場に参加。相互に運営推進会議に参加するなど情報交換にも努めている。職員に対して事業所としての地域の在り方など周知展開を行っている。今年度は地域ケア会議にも、事業所内の感染症対策時以外は参加できている。			
14	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	引き続き利用者は地域住民としての視点から、相互に信頼関係を築き、共同生活を過ごしていけるように努めている。また日常生活の中で利用者が本人の役割を持てるように心掛け、職員からは尊敬の念を忘れないよう、且つ、相互に協働して暮らしていけるよう取り組んでいる。			

15	馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	今年度は感染予防に気を付けながら、実際の感染症対応時以外は、利用者家族、友人知人との直接面会の機会を継続して提供できている。また家族との電話の機会にも、意図的に事業所からもアプローチして機会を設けている。	従来の地域や在宅時の関係性を大切に。今年はゆうゆうOBがゆうゆうにて交流するなど。できた。今後ももっと広げていきたい。 外部評価～意見（利用者家族より） 感染症予防に気を付けながらも利用者個々の家族との距離感を理解する、近づける、結びつけたい。家族からの心の希望などを大切にしたい。応えていきたい		
II. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
16	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方、生活環境、一日の過ごし方の希望や意向の把握に努めている。	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	自宅での生活や、過去の家族との関係性など、個々の意向や生活歴を尊重している。の把握に努めている。一時的に不安愁訴が多くなる利用者もいるが、その時々々の心身の気持ちの波ととらえ、一緒に気持ちを沿いながら過ごせるようにしている。対応に悩むときは、家族や以前の支援者からも助言をもらい、支援に活かしている。			
17	チームでつくる介護計画とモニタリング	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	今年度途中より介護計画の様式を見直した。具体的には、事業所、グループホームの特性を活かしながらも、居宅介護支援の様式に準じた様式を取り入れた。利用者家族の意向や生活歴から現状の過ごし方、意向、支援目標、内容まで、本人の言葉をなるべく取り入れるようにしている。計画作成担当者のみならず、職員全体で、周知見直しをしていきたい。	従来使用していた様式に比べて、本人や家族の意向が端的に言葉として記載するようになった。 H様 ケアプラン新旧様式参照 ⇒要介護5となり、「トイレに行くことが負担になってきた」「しんどい」という声。一見悲観的な声であるが、老いの中、その声を拾い上げ、ケアに反映させることも必要。	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	A×3人 B×3人 ●計画のなかで本人の意向や希望が書かれていることが重要。担当者だけの計画にならず職員全体でケア内容を把握してよりよいケアを期待する。 ●認知症の利用者から意向や思いをつかむことは難しい。何気ない一言や行動から掴み支援に反映させてほしい。 ●家に居たときのことなど聞かれるし、伝えるようにしている。 ●様式については、運営推進会議の事例等で参考にみせてもらえたら。

18	個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	利用者の日々の状態を個人記録、日誌、申し送りと個別に記録しており、職員間の情報の共有を徹底している。介護計画も見直しに取り組み注で、評価しやすい記入方法で情報の共有、モニタリングへの反映に努めている。	/	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	A×4人 B×2人 ●職員間の連携がとりやすかつ記録等が業務負担にならない方法を工夫しているのでは。 ●日々の個人記録等、業務も忙しいなか、計画を見直すタイミングを明確化していればよいのでは。
19	一人ひとりを支えるための事業所の多機能化	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	<input checked="" type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	共用型認知症デイサービス、ショートステイとも、今年度は、感染対応時以外は、支援を止めることなく提供できた。ショートステイも空床、緊急共に感予防をより図りながら提供(緊急ショートについては担当ケアマネの判断による)。デイ土日祝のサービス提供も実施。一宮圏域として他事業所のデイも含め、利用者にとって、多機能化した支援の一翼を担えた。	共用型認知症デイ（定員3名）、空床緊急ショート、入居～ 本格的再開開始して2年半程度経過。 柔軟な支援、サービスの多機能化を目標に。小規模多機能のような機能ができればいい。ただしあくまで居宅ケアマネの判断、ケアマネ本人家族の意向に沿って、事業所がその役割を担えるのであれば。この2年半、デイショートとも法人内の居宅からの依頼はなし（笑）。他法人の居宅ケアマネからの依頼。入居も今年の2名は一宮・北淡社協より。 利用者一人ひとりの支援にあたり、同一法人完結ではなく、地域完結の一翼を担えることが目標	/	/
20	地域資源との協働	一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input type="radio"/> B. ほぼできている <input checked="" type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	今年度は新型コロナ第5類分類移行以降、外部、地域との交流を徐々に再開してきた。地域の行事で家族や友人とも再会する機会も提供できた。従来当たり前であった、日常を少しずつ取り戻していけるよう支援したい。	今年度は地域への外出を本格的に実施。受診や必要時を除く家族との外出も、感染状況をみながら緩和、再開の方向で検討している。事業計画、目標でまずは事業所外出における外食を企画実行。続いて受診や所用以外でも家族との外出の機会の再開も検討している。	/	/
21	かかりつけ医の受診支援	受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	<input type="radio"/> A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている <input type="radio"/> C. あまりできていない <input type="radio"/> D. ほとんどできていない	利用者家族には、入居前の主治医に引き続いてかかりつけ医を継続。関係性を支援している。家族との受診の機会の提供とともに、体調変化時や家族の所用の際には、事業所からの受診支援も柔軟に対応してい	/	/	/

				<p>る。各かかりつけ医とは、事業所の看護師が中心となり、連携を深めている。嘱託医や特定の医療機関との提携がない分、事業所としての負担はあるが、利用者個々の背景、関係性を尊重しながら、適切な医療が受けられるように事業所としても支援している。</p>		
22	<p>入退院時の医療機関との協働</p>	<p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>入院した際には、病院側との情報提供や情報交換（FAX や電話等）を行っている。退院の前には、介護支援専門員、看護師らが病院側のカンファレンスに必要時に参加したり、情報提供を受け、退院後の生活に活かしている。今年度は医療センターからの直接的な退院支援にあたっては。入院～カンファレンス～受け入れ態勢の準備、スムーズな退院後のケアが提供できた。</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>B×6人 ●関係機関と連携し適切に、情報交換を適切に行っている。 ●医療機関によって体制も異なり、連携には困難な面もあると思う。退院後、事業所に戻っての生活がスムーズにできるような関係づくりも重要だと思う。</p>
23	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>積極的な終末期のケアは行えていないが、重度化については、指針にも沿って支援を提供できている。平均要介護度 3.22。入居期間 10 年目を迎える利用者 3 名。要介護 5 利用者が 2 名、要介護 4 利用者が 4 名。家族に前もって、また変化のタイミングを見て、都度説明し、状態悪化時には施設内でできる事の提案を常に行っている。また、要入院状態や、特別養護老人ホームへの入所や入院加療までは、できる範囲でのケアに努めている。退去者にあたっては、特養等入居が著しく低下。家族もできる範囲で、長く事業所での生活を望む場合が多く、長期入</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>A×1人 B×5人 ●グループホームでの終末期の看取りの受け入れも積極的に推奨されてはいるも、実際の現場では難しい面もあると思う。入居から 10 年経過され、要介護状態が高くなっている利用者へのできる範囲で対応している。現場の負担も大きいかと。家族にとっても不安な面でもあると思うので、前もっての相談、共通理解が重要かと思う。 ●重度化については、個別事例の特性上、一気に進む場合もあるので、早い段階から家族や本人と話し合っておくことが大切。要介護 5 の利用者も 2 名おり、スタッフの負担も大きいかと心配もある。そういう事例から今後の支援や特養</p>

				院やその後の逝去の退居割合が増えている。			等への移行のタイミングを振り返ることも大切かもしれない。
24	急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	急変時の対応マニュアルや、夜間の緊急マニュアルを作成済。第一発見者が過度な負担や利用者への不利益がないよう、連絡連携体制も強化。急変時は、すぐに救急車を要請するまでの周知している。			
25	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	総合防災訓練/避難訓練を実施している。避難確保計画や厚生労働省指定の事業継続計画のベースは作成済み。事業所の事業継続計画（BCP）も作成（備蓄品等最終的な記入は今年度中に実施し完成予定）。今後はこれらの計画も周知し、また訓練を行いながら、計画をより実務的なものにしていく必要がある。	BCP。感染症についてはある程度想定動きができた。年始の能登半島地震をみても災害については想定がつかない部分があることも現実。さらに改善重ね、運営推進会議でも確認できる場が持てれば。実際には3日間、1週間での想定以上のことが能登半島でも起こっていた。BCP立案についても、継続的な改善が必要。	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	B×3人 C×3人 ●BCP計画については、経過措置が終了するので、策定の完了をお願いします。 ●非常時に備えて、実際には訓練をすることが全職員の災害時の実際の動きにつながると思う。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

26	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	引き続き、接遇委員会が中心となり、接遇目標を、更新しながら毎日の朝礼で唱和を継続。利用者の尊厳、プライドを大切に、職員同士で意識を持ち接するようになっている。勤続年数が長くなりグループホームにて、支援者が慣れすぎて、言葉や態度がマンネリ化しないように十分留意していく必要がある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×1人 B×5人 ●利用者の尊厳を守ることは介護保険法の総則でも定められており、どんなに慣れて親しくなっても、利用者の尊厳の保持は介護従事者の基本である。例えば言葉遣いについても、尊厳の保持という点では丁寧な言葉遣いが基本。しかし、介護の現場では教科書通りの方法が通用しない状況が多々あり。丁寧な言葉かけが必ずしも適切とは言えないと考える。認知症のある方、周辺症状のある方は、慣れ親しんだ地元の言葉で声をかけてもらうことで安心されることも多いかと思えます。しかしそれはあくまでも専門職としてコミュニケーションスキルとしての言葉かけであることが前提である。その方の生活歴や身体面、精神面の様子などをアセスメントしたうえでの、援助の方針として、「本人が安心して介護を受けることができるために必要
----	--------------------	---	--	---	--	--	---

							だから、敢えて親しい言葉遣い(地元の言葉等)で声かけしている」ということを職員の皆さんで共通理解しておいてほしい。
27	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりの日常生活における希望や意向、暮らしのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者個々の日常生活リズムを把握するように努めている。長年利用者と職員で築き上げたグループホームの日課やペースもある。それも大切に、かつ画一化されないよう利用者個々の生活ペースを意識したケアにあたっている。			
28	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	コロナ禍以降の毎日の調理は、一部の利用者を除き、日常生活の一環としてまでは行えていない。ただ一部の利用者は行事食などに調理も参加する機会を持っている。今年度は広告を見るのが日課の利用者の意見を献立に取り入れ、広告から発注品を検討するなどした。食器洗い、食拭き等は感染対応時以外は、日常生活の家事として随時に一緒に行うことができる。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×4人 B×2人 ●デイサービス利用をはじめたときなど、慣れるのに台所に立たせてもらっていた。工夫してもらっているのがわかった。 ●生活のなかで、おいしいごはん、食事を楽しむということは利用者の皆さんにとっても大きいと思う。利用者の何気ない一言をすくいあげ、そこから支援につなげることは素晴らしいと思った。 ●チラシを見て利用者さんの食べたい意見を聞いて、取り入れたことは本当に素晴らしい。利用者の能力を活かしたり、希望を叶えてあげてほしいと思う。
29	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個々人の状態、口腔、嚥下状態に応じた食事量、食事形態を合わせている。介護職員が調理するなかでも、ペースト調理なその人、その時に応じた柔軟な対応はしている。ペースト食も複数人になり重度化とともに、増加している。対応可能な範囲で、継続的に提供できるようにしていく必要がある。			

30	口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	毎食後に声掛けを行い、歯磨き、うがい、口腔ケアを行っている。自立状況に応じ介助し口腔内清潔保持に心がけている。必要に応じ、以前のかかりつけ歯科医や近隣の歯科医に相談、受診している。	/	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×2人 B×4人 ●食事を楽しむというところにもつながるところで、口腔ケアについては、様々な分野で重要性がいわれている。引き続き個別でのケアを期待したい。 ●毎食後に声かけをして、歯磨きができていることがすばらしい。 ●歯磨きの理解が難しくなっていると聞く。うがいでだけでもしてもらっている。できることをしてもらえたら。
31	排泄の自立支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援、便秘の予防等、個々に応じた予防に取り組んでいる	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	排泄状況を把握するため、排泄表に記入し排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を前提としている（一部夜間のみおむつ交換）。2人介助者も複数。要介護5の利用者2名を含む、利用者全員が日常的にトイレでの排泄の機会を持っている。	/	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×2人 B×4人 ●トイレに座って排泄することは、高齢や認知症が出現すると特別なように感じてしまいがちだが、1日に何度も機会があることで、その当たり前を守ることは重要であると思う。2人介助での排泄支援は職員の負担も大きいですが、利用者の状況と合わせて判断しながら取り組んでもらえたら。 ● トイレ排泄の自立支援はとても大切。排泄パターンを把握など大変だと思うが、頑張ってもらいたい。
32	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入浴拒否の利用者に対しては、声かけの時間を空ける、職員を変えるなど工夫し、翌日に変える等、都度により日や時間を変えたりしながら入浴できるように対応している。立位困難で、個浴への移乗が難しい複数の利用者には2名体制、男性職員含めた2名体制で対応している。	/	/	/
33	安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	1日のうちに個別と集団のそれぞれの余暇活動の時間を設けている。充実した活動を心がけている。個々の生活習慣を把握、生活リズムを整える一環として、悪天候を除き、朝の体操や散歩を目的として、陽を浴びて頂く機会も設けている。状況に応じ休息をとって頂くよう支援している。	/	/	/

				高齢で体力が低下した利用者には 昼寝の時間をとれるようにしている。			
34	服薬支援	一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	個人ファイル、お薬手帳にて職員がいつでも把握できるようにしている。服用薬の変更や留意点は、薬剤師を通じ、職員間で共有できる体制をとっている。内服薬介助時は、薬と利用者の名前確認し、利用者の前で名前を復唱し、手渡し服用するまで確認をしている。薬の変更、状態変化時は各主治医、薬剤師、事業所看護師等の連携が出来るようになっている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×2人 B×4人 ●家族と今まで世話になった病院にかかっている。家族がわからないことなど先生や薬局に聞いてくれるのは安心。家族の病院に連れていく都合にも配慮してくれていると感じる。 ●服薬支援は介護職員にとって負担も大きいので、現場で介護される職員の負担が少ない方法で実施していつてもらえたら。 ●事業所での誤薬については、認知症対応型という特性上、可能性も他施設に比べ大きいかも。薬と利用者の名前確認が、利用者に手渡し～服用するまで見守り確認が必要だと思うが取り組みとしてできているように思う。
35	役割、楽しみごとの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	入所前後のアセスメントを把握し、日常生活を過ごしていく中で得意分野や出来る事、嗜好を探し出し、できる事は発揮できるように声かけし促している。個々に合った役割を見つけ楽しみとなるように心がけている。画一化することではなく、できる人にできることを続けることができるよう配慮している。	行事報告にもあるような、洗濯、洗い物、掃除などの家事、畑などの作業。生活リハビリとして取り組んできたことを、より深めていく。		
36	日常的な外出支援	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外出支援も再開に取り組んでいる。ただ一人ひとりのその日の希望に沿うことまでは対応できていない。コロナ禍のもとで外出は控えざるを得ない状況から少しずつ回復していつている途中である。	今年度利用者の声に応え、既に食事なども含めた今年度以上の外出企画計画検討中。委員会に提示予定 現在利用者の声として、入居前にいったタッチパネル回転寿司などいつみたいとのこと声もある。		

37	お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	家族の了解の元、自分でお金を持つことはできる限り尊重している。実際に所持されている利用者は限られている。			
38	電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人から希望により電話や手紙を出せるようにはしている。夫への電話をする利用者。娘からの電話を待つ利用者。意図的に機会を設けその場の提供、支援に努めている。利用者からの家族への携帯電話からの電話も、家族に了解を貰い適度な距離を持ちつつ、利用者の気持ちの安定をはかっている。			
39	居心地のよい共用空間づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。共用の空間が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、一人ひとりが居心地よく過ごせるような工夫をしている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	写真、家具、飾り物などは、入居前に自宅で使っていたもの物等を可能な範囲で入居後も使用できるよう配慮したり、また、家族に相談しながら、配置してもらっている。家族との写真や、日用品なども個々に合わせた工夫もしている。仏壇を持ってきたり、こだわりに沿い、自室で洗濯物を干したりできるようなしつらえも提供している。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×3人 B×3人 ●自分の環境を入居後も、できるだけ維持できるよう利用者個々の希望やこだわりにも可能な限り対応している。 ●馴染みのある家具など持ち込んで生活できることは、本人の安心につながると思うので、可能な範囲で続けてほしい。運営推進会議で訪問した際、食堂など共有スペースも暖かい雰囲気、利用者が過ごしているのが安心できるのでは。
IV. 本人の暮らしの状況把握・確認項目(利用者一人ひとりの確認項目)							
40	本人主体の暮らし	本人は、自分の思い、願い、日々の暮らし方の意向に沿った暮らしができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人の意向をくみ取り、生活ペースを大切にしている。「本当は通いたい」など意向に沿えない部分もある。気持ちを把握しながら、かなえられる範囲の妥協点を見出して実現していくことも必要である。			
41		本人は、自分の生活歴や友人関係、暮らしの習慣、特徴など様々な情報をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	アセスメントや家族からの情報をもとに、入居前の生活歴を大切に、心地よい習慣を見つけ支援している。電話で友人や家族等馴染みの方と話をする機会をもつなど関係性を途切れないようにしている。			

42		本人は、自分の健康面・医療面・安全面・環境面について、日々の状況をもとに、ケア・支援を受けることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	日々の心身の体調を観察、把握し、細かな日々の変化に、柔軟にケア内容を変更していている。職員間で情報を共有し柔軟にできるところが現状の事業所としての得意な点である。食事提供や、自助具の活用など職員間でアイデアを持ち寄り、よりよい利用者支援のために実践している。一方、変化が多様になり、もともとのケアの根拠の共有が見えなくなってしまうようには留意する必要がある。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×2人 B×4人 ●職員の皆さんの愛を感じる ●スタッフ間で話し合い、細かくケア内容も変更自助具についても、なるべく利用者の負担が少なく済むよう、安価な範囲で工夫して使用できるよう配慮ができている。 ●福祉用具ばかりに頼るのではなく、生活の中で様々なアイデアで乗り切っていることがよくわかる。様々な工夫は利用者をよく理解しているからこそそのアイデア。
43		本人は、自分のペースで、これまでの暮らしの習慣にあった生活ができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者個々の生活習慣は大切にしている。歩きまわったりすることも、事業所内のできる限り制限をしないよう、可能な範囲で見守っている。時に階段やエレベーターで1階と2階を行き来する利用者にも行動は制止しない。一緒に見守る。付き添う自室とリビングの行き来も、強制することなく、利用者自身のペースを尊重している。			
44	生活の継続性	本人は、自分のなじみのものや、大切にしているものを、身近（自室等）に持つことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	本人持ちの携帯電話、テレビ、お守り、家族の写真、そろばん、位牌など個々の利用者が大切にしているものや家族のおいてあげておきたいものなど、を身近に置けるようにしている。また在宅時から続けてきた利用者と家族との交換日記も継続できるようにし、時に家族とともに見守っている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×3人 B×3人 ●携帯電話も使えなくなったが、まだ置かせてもらっている。 ●利用者の大切にしているものや馴染みのものを置くことで、自宅での暮らしのような雰囲気でも過ごせる。 ●利用者の馴染みのものを持ち込んで生活するという事は、それまでの生活を尊重し、場所が変わっても、今後の生活を大切にすることに繋がっていく。 ●個々の利用者の大切にしているものや大切にしたい想いを尊重できている。
45		本人は、自分の意向、希望によって、戸外に出かけることや、催（祭）事に参加することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	外出については、特に催（祭）事について中心に参加できる機会を持つことができた。伊弉諾神宮祭では、濱北地区青年団の方に練りに事業所に来	地域との交流、催事行事にも今年度より多く参加していきたい。		

				所いただく。一宮住民福祉祭りでは友人や家族に出会い共に再会を喜ばれる場面もあった。施設の企画行事以外にもこのような機会を数多く重ねたい。			
46		本人は、自分ができること・できないこと、わかること・わからないことを踏まえた、役割や、楽しみごとを行うことができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者の入居期間が長くなり、重度化も伴うことにより、利用者間のできることできないことわかることわからないことに大きな開きも生じている。そのような中でも互いに認め合い尊重もできるように、都度職員が仲介できるような努めている。家事や趣味、余暇活動なども互いの協力で成り立つようにしている。			
47	本人が持つ力の活用	本人は、自分がいきいきと過ごす会話のひと時や、活動場面を日々の暮らしの中で得ることができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	利用者同士の関係性にも配慮し、よりよい関係が維持できるように適時、支援している。男性女性問わず、家事の中で、役割を持ってもらったり、利用者職員とも他者に認められることで居心地良く過ごせるように配慮している。また短期記憶の喪失があっても、一部でも中長期記憶に転じて安心してつながるよう、同じ居住地域や生家の地域など利用者同士、職員も含めた関係性にも配慮。日常の関わりのなかで、そのような気持ちや認識のもと、穏やかに過ごせるような気持ちの支援の上積みも意識をしている。		A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	A×2人 B×4人 ●認知症になっても、役割を持つことはとても大切。「ありがとう」の言葉はうれしい。しおさいとゆうゆうで利用者の交流も図ればより楽しくなるのでは。 ●事業所内であっても家事を役割としてお願いしたり、利用者が興味・関心を示していることを生活の中で少しでも取り入れていくことが、いきいきと過ごすことに繋がるのかと思う。 ●食器洗いなど家事を一緒にすることは、利用者が自分の役割を持ち、自分の居場所として生活できている安心につながり、手伝ってくれてよかった助かった、などの一言はできなくなってきたと思いがちな高齢者にとってはとてもうれしいと思う。
48		本人は、自分なりに近隣や地域の人々と関わったり、交流することができている	A. 十分にできている B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない	感染予防の実情に応じながらも、地域の行事や友人知人含めた面会等の交流を本格的に再開できて年度となった。			

49	総合	<p>本人は、この GH にいることで、職員や地域の人々と親しみ、安心の日々、よりよい日々をおくることができている</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>昨年のサービス評価時の通り、コロナ禍後のグループホームの本質に立ち返ることが求められる年度となった。先述の通り、本格的にコロナ後の日常の回復に向けて取り組む年度となった。今後も更なる感染症や災害にも予期される。そこに向き合いながらもいかに気持ちや身体の変化により、自宅での生活が難しくなり、住まいが変わっても、家族や仲間、地域とのつながりを持ちながら共に暮らせるようにしていくことが求められる。地域、市内でよりよいグループホームにしていきたい。</p>	<p>2024 年度 改善計画（案）提示。参照。</p>	<p>A. 十分にできている <input checked="" type="radio"/> B. ほぼできている C. あまりできていない D. ほとんどできていない</p>	<p>A×2人 B×4人</p> <ul style="list-style-type: none"> ●運営推進会議の報告からは、一人一人の利用者が尊重されている様子が伝わりほっとし、気持ちを新たにできる。 ●感染症がでないよう細心の注意を払って業務を続けてきたこと、出た際も、利用者最優先で取り組んでいたように思う。今後、災害や大きな感染症になったときの対応、感染症との共存しながら地域との交流、利用者が望む生活を支援していくことは、多くも課題があると思うが、管理者らを中心に、安心できるグループホームでいて欲しい。 ●職員と信頼関係が結べており、安心した生活を送ることができている。今後は地域の人々との交流が定期的に行えることが望まれる。
----	----	---	--	---	-----------------------------------	--	---